



二人のどうぶつ眼科専門医が語る

# 『ワンちゃんのための眼科セミナー』開催

愛犬の光を守るために  
飼い主が知っておくべき  
知識とは？

白内障、緑内障、PRA…、  
眼の病気がよくわかるセミナー

ブードルやダックスなど人気犬種に多いPRA（進行性網膜萎縮）、犬種によっては若年でも発症し、若い頃から失明してしまうことも多い白内障…。実は眼の病気で悩んでいる飼い主は意外に多くいます。しかし、病気の内容を正確に知ることは厳しい現実があります。その理由のひとつは、飼い主向けの一般的な医学書を読んでも病気の実態がよくつかめないこと。さらにかかりつけ医が眼科専門医でない場合には、先生に質問をしても適切なインフォームド・コンセントを受けることができないこと、などがその原因に挙げられます。その一方で若年性白内障で失明してしまう犬たちが多くいるのです。

そんな飼い主のみならず、獣医眼科の専門医である、藤井裕介先生、小林義崇先生のおふたりの先生が、とてもわかりやすく病気の紹介をしてくださった



のがこのセミナーです。

セミナーの内容は藤井先生からは白内障について。そして小林先生からは、緑内障、網膜変性症など白内障以外の眼の病気についてのお話。そして協力企業として参加されていた、犬用眼内レンズでおなじみの『メニワン』からは、眼病予防が期待できるサプリメントの紹介が行われ、最後は質疑応答となりました。

会場には一般の飼い主のみならずはもとより、現役の動物看護師のみならずも集まり、熱心におふたりの先生の講義に耳を傾けていました。3時間にわたるセミナーでしたが、とても短く感じられたこのセミナー。セミナー終了後には「とてもよいセミナーでした」という感想の声が会場のあちこちから聞かれています。中には「ウチの犬は白内障なんです。今日、やっと病気の実態がわかりました」という感謝の言葉も。眼の病気で心配な飼い主さんたちにとって、まさに福音のようなセミナーとなりました。



(写真右) 藤井裕介獣医師  
アセス動物病院

日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科を卒業。比較眼科学会認定の獣医眼科専門医。現在は東北大学大学院医学研究科に所属し、アセス動物病院（宮城）にて、眼科担当医を務める。

(写真左) 小林義崇獣医師

DVMs どうぶつ医療センター横浜  
東京大学農学部獣医学科を卒業。比較眼科学会認定の獣医眼科専門医。現在は DVMs どうぶつ医療センター横浜（神奈川）にて、二次医療センターの眼科医長を務める。

## なんで白内障になるの？

透明性を保つ機序が壊された時

水晶体が透明なのは

- ・透明な眼房水
- ・線維の規則正しい配列
- ・不可溶性タンパク質が少ないこと

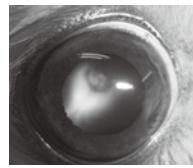


- ※眼房水が濁る
- ※線維の配列が乱れる
- ※不可溶性蛋白が増える

セミナーでは藤井先生から、白内障の手術の様子がビデオで紹介されました。囊を切り取って水晶体の内部を削りながら吸い取っていきます。そして眼内レンズを囊内へ入れていきます。



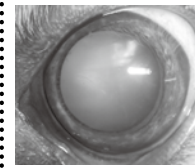
## 【白内障進行ステージ】



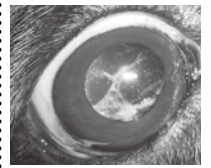
初発白内障  
進行予防



未熟白内障  
進行予防  
手術検討



成熟白内障  
手術  
消炎治療



過熟白内障  
可能なら手術  
消炎治療

## 【白内障の原因】

- ・ 遺伝性
- ・ 全身疾患に関連：糖尿病など
- ・ 薬剤・毒性：PRA（進行性網膜萎縮症）など
- ・ 栄養
- ・ 外傷：ネコに眼を引っ掻かれる、放射線など
- ・ 加齢：ゆっくりと進む核白内障

## 【遺伝性】

- ・ 約 125 犬種の報告がある
- ・ M・シュナウザー、ボストンテリア、A・コッカー、E・コッカー、ビションフリーゼ、G・レトリバー、G・ピンシャー、アフガン・ハウンド、S・プードル、ウエスティ、G・シェパードなど。

## ・ 白内障になった眼の事故率調査

- ・ 白内障手術眼 = 1
- ・ 内科治療眼 = 65
- ・ 無治療眼 = 255

手術をするならばできるだけ早くがよく、しない場合でも白内障になったら消炎治療を続けるべき。事故率とは白内障手術をしても失明してしまった、あるいは手術しなかったケースで疼痛をコントロールできず緑内障手術や眼球摘出に至った率。

※手術法の確立により手術成功率は 80-90%

※手術成功のポイントは、術前の状態・手術技術の向上・術後管理

※ワンちゃんの白内障に対しては、眼科専門医・ホームドクター、飼い主さまが協力しチーム医療で取り組んでいく。

## 【網膜変性症 ～こんな症状に注意～】

### PRA

夕方暗いところでぶつかるようになる  
おもちゃで遊ばなくなる  
おやつに気がつかなくなる  
瞳孔が開きがちになる

### SARDs

急にぶつかる・動きが悪くなる  
飲料水や尿量、食欲が増加する

動物病院を受診する白内障ワンコで最も多いステージは『成熟白内障』

## 病気のメカニズムがわかると、治療方法も前向きに

このページで両先生の講義内容について、そのすべてについて詳しく紹介をすることができないのですが、スライドで紹介されたいくつかの内容の中で、とくに気になるものを誌上で再現してみます。

まずは藤井先生による白内障の紹介。白内障の発症のしくみは前頁の下の表にある通り。眼房水が濁ることによって、水晶体内の線維が不可溶性へと変化することによって発症をしていくのだそうです。そして進行のステージは上段の写真にある通り。白内障の手術は人の白内障の手術と同じで、濁った水晶体の核と皮質を取り除き、囊は残します。その囊内へ眼内レンズを入れていきます。どのように手術が行われるかについて、ビデオで流されました。

続いて小林先生からは、緑内障と網膜の病気の話。実はあまり知らないのが緑内障。人では徐々に眼が見えなくなる病気がとして認識されていますが、犬では急性の緑内障があり、この場合、1日から2日で見えなくなってしまうことがある、というお話に会場が静まり返る、という一幕も。犬の原発緑内障は「隅角」と呼ばれる眼房水の排出口の閉塞が関連していることが多いのだそうで、若い頃から隅角のチェックや眼圧測定を受けておくことによって、早期発見ができるそうです。

小林先生からはもうひとつ気になる眼病についての紹介がありました。それは「網膜変性症」。ダックスやプードルなどに遺伝的に発症してしまうPRAやSARDsなどです。これらの病気も治療法がなく、やがて失明してしまう病気です。さらにPRAは白内障を続発してしまうことがありますが、いずれも遺伝性が疑われる病気です。飼い主としては早期発見で病気の進行を抑制することが最大の予防方法なのです。ちなみに欧米では病気を持つ犬たちを繁殖に用いないことでPRAがほとんど淘汰された犬種もあり、日本も一日も早くそうなることを望むばかりです。

## 【網膜変性症って、どんな病気？】

### 失明してしまう！

徐々に (PRA)  
3ヶ月から 16歳  
急激に (SARDs)  
6-10歳が多い  
平均 8歳 (日本)

### 治療法がない

サプリメントで進行抑制 (?)  
PRA は白内障を続発することがある

### 遺伝性 (が疑われる) 疾患である

好発犬種 (日本)

### PRA

M・ダックスフンド、M・シュナウザー、R・レトリバー、ポメラニアン、プードル、ヨークシャー・テリアなど

### SARDs

M・ダックスフンド、マルチーズ、M・シュナウザー、シーズー、ポメラニアン、バグなど  
遺伝子検査が可能な犬種もある。  
繁殖の抑制



予定時間をオーバーしてしまった、質疑応答。



眼病の予防が期待できるサプリメントについて紹介するメニワンの近藤直樹薬剤師。白内障、緑内障はともに発症をすると実治療が望めない病気だけに、発症、進行を遅らせる知識は飼い主にとって、とても大切な知識になります。



会場のみさんの質問に応える両先生。この機会に…ということで、さまざまな質問が飛び交っていました。

## 『アイチエック』とは、どんな チェックなのでしょう

二人の先生のお話が済んだ後は、質疑応答の時間でしたが、待ち受けていたかのように数々の質問が出ました。まず最初の質問は、

「お話にアイチエックをしてください、とありましたが、アイチエックとはどのようなものなのでしょうか」というものでした。

白内障、緑内障、そして網膜変性症など眼の病気については、治療が難しいのが現実です。そのため両先生からは早期発見の重要性が述べられました。定期的な『アイチエック』です。

「眼の病気のすべてがチェックできません。ただし病院によってはできる検査が限られることもありますので、かかりつけ医

に相談をしてみるといいでしょう。

「アイチエックにかかる時間と検査の内容について教えてください」

「検査の内容や病状によって、異なってきます。さらに、地域によっても違ってきますので、ひとくちには言えません。検査の種類、あるいはその犬の性格によっては鎮静剤が必要になってくることもあります。時間という点、半日ぐらいかかります。午前中に来ていただいで、検査の説明をさせていただいて、夕方迎えに来ていただく、という感じでしょうか。」

「網膜電図検査ですと、ウチの病院では半日の預かりになります。遺伝子検査ですと、血液を採取して、結果は数日後にご連絡をすることになります。」

「若年性白内障のポストン・テリアです。両眼とも白内障です。手術費用はどのぐらいかかりますか」

「私どもでは(アセンズ動物病院)では、入院から退院までの費用が片眼33万円前後です。両眼ですと52万円前後。」

「両眼同時に手術をしますか」  
「話し合いをして決めます。片方ずつ手術をする場合もあります。」

「私どもの病院では(DVMs)、入院から退院までの、手術代を含むトータル費用が片眼の場合約35万円です。」

ただし私の経験ですと、ポストン・テリアの場合、白内障の手術後緑内障を発症することもありますので、そのリスクを考慮しておいていただきたい。

「以前、藤井先生に義眼の手術をしていただいた、アメリカン・コッカーの飼い主です。術後9年経過していますけれど、とても元気です。その際はどうもありがとうございました。」

「自宅でできることを教えてください」  
「『眼が白いな』と思ったら検査を受けていただきたい、ということです。6歳未満で純血種であれば、白内障になりやすくなります。それが検査を受けるきっかけになればと思います。」  
「『充血を見る』ことも重要だと思います。眼がシヨボシヨボしていたりです。充血を甘くみないでください。」

現実に病気に直面をしているみなさんの質問に、ひとつひとついいに答えていただきました。質問は他にもありましたが、時間の都合ですべての質問を受けることができません。またこういった機会があれば、というのが飼い主さんたちの素直な希望でした。